

# 浄青神奈川

大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆



## 自信教人信

「今すべきこと」

浄土宗神奈川教区青年会  
第十五代会長 渡部 俊賢

この度、夏見裕貴第十四代会長の後任として、神奈川教区浄土宗青年会（神浄青）の第十五代会長を勤めさせていただくこととなりました。私自身は、全く浅学非才の身であります。今十七期二年間を会員の皆様と共に、浄土宗青年僧侶としての研鑽を積んでいければと考えております。誠心誠意、努めさせていただきますので、ご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。また、神浄青は昨年三十周年を迎えました。創立期から今に至るまで、多くの先輩諸師の努力と情熱によって培われた神浄青の歴史と伝統を継承して行きたいと思っております。

さて、経済至上主義といわれる昨今、国家や組織、また個々が、自己の利益を善悪の判断とし、尊い生命をも軽んじるような社会になつていくようです。こんな時、人々は宗教に救いを求めるのでしようが、宗教者もまた、社会の波に飲み込まれ、正しい判断ができず、社会から取り残されてしまうのではとも考えられます。今、私たち青年僧侶は、我が身を振り返り、自分たちの存在について考える時機かもしれません。

「自信教人信」今すべきこと」を活動テーマとし、事業を進めて行きたいと考えています。「自信教人信」の一文は、善導大師の「往生礼讃偈」の初夜礼讃の一文であります。どちらかという偈文の「自信偈」としてお唱え

することが多いと思います。「自ら信じ、人をして信ぜしむる」。偈文ではさらに、「そのことはとても難しいが、阿弥陀様の大悲を伝えることが、仏恩に報いることである。」と説かれています。私自身も深い理解をしているわけはありませんが、私たちは、仏飯を頂き、生かされている身であります。法然上人のみ教え、阿弥陀様の大慈悲を二人でも多くの人に伝えることが僧侶の使命であり、それができる浄土宗僧侶となるべく研鑽をすることが、今すべきことと考えます。

より大切であります。神浄青の事業としては、十六年度に自行で得たものを十七年度に檀信徒と共に大別時会を行いたいと考えています。また、一般社会に対して、私たちが出来ることをさせて頂くことも、青年会としての化他行となるでしょう。昨今の社会情勢を見ると、戦争や天災などにより、多くの人命が危機にさらされています。世界の子供たちを支援できる救援基金を開設したいと思えます。また、国内では児童虐待や青少年の凶悪犯罪、そして犯罪被害者の問題などを、一人の人間として、また僧侶として、何が出来るのかをみんなで考えていければと思います。

「和合」は、同じ道を求める、同行同行の仲間との出会いであり、かけがえのないものです。共に悩み、共に苦しみ、共に学び、そして共に楽しみ、語り合えることが、浄青の素晴らしさであります。また、今期はOB諸先輩方との交流事業も予定しております。

最後に、繰り返すようになりますが、私たち青年会はこの時機に何を学び、何を実践すべきなのでしょう。浄青は、浄土宗の信仰を基にした和合集団であり、法然上人の正しいみ教えを学び、お念仏を称え、他に伝えることが第一義であります。浄土宗僧侶としての資質を少しでも多く身につけ、自身の信仰を深めて「今すべきこと」をみんなで作え、共に実践していきましょう。



## 創意工夫是仏道

大本山光明寺法主 宮林 昭彦 台下

神奈川浄青が新年度を迎え、夏見裕貴会長が退任し、新会長に渡部俊賢師が就任され、更なる進展を期してスタートされまことに祝意を表すると共に、今後大いなる期待を申し上げます。

夏見会長には在任中様々の事業を推進されましたが、自信教人信の心意気をもって会員相互の融和を計り、自策自励のたため度々別時會を催されましたが、とくに主催をして日想觀の法會を開筵したことが印象に強く残っています。開山上人がこの地に開創された理由の一つとして、念仏の根本である往生浄土の信仰を体験するために、日想觀を行ずる目的をもつこの環境を選ばれたと思われます。宗祖上人が春秋彼岸の中日に日想觀を示されているのも、まさに浄土を觀想し、是心作仏是心是仏の境地に至るためでありましよう。山門より拝む日没は絶景であります。

に自利を求め行動をおこし体得する姿勢が求められます。若い頃奈良唐招提寺の森本長老が「創意工夫是仏道」といわれて「日常生活是仏道」を説かれたことを思い出します。

それは時流におもねったり俗化することではなく、巍然とした姿勢で厳格に仏道を実践し、その体験を通して心の感動したことを伝えること、自分の言葉で語り、相手の心を癒すことの大切さを示されたのであります。

宗祖上人の教の特色は、時機相応といわれます。經典の五濁悪世は、現実の世界の様相そのままであり、末法濁悪（今）に生きる罪悪生死の凡夫（私）が救われる道は、念仏のほかにはないことを示された宗祖のみ心を、どう受けとめるかが、現代的課題といえます。

現代の多様な価値觀の尺度で仏教を見直すことの大切さと共に、仏教の、念仏の尺度で、現代生活を見詰め直し、眞の生き方のメッセージを送ることの必要性を痛感します。一層の御活躍を念じて御挨拶いたします。



## 責任ある行動

神奈川教区教区長 成田 光俊 上人

浄青の皆様には本年二月の沖繩団参など、常に教区行政、教区事業にご協力を賜り感謝いたします。この度、夏見会長には任期を終えご退任されますこと、会長始め役員の方々にはご苦労様でした。皆さんの残された業績は語り継がれていくでしょう。今期は「自信教人信」をテーマに渡部新会長が就任されお慶び申し上げます。活躍を期待いたします。

教化することは大変なことです。宗門人としては当然の指命です。それだけに、いま自分の立場を知ることが大切です。強化の基本は己を律することです。教化の方法として言葉を用いますが、ある先徳が「どんなに偉そうなことを言っても、口だけではついてこない」と語つてられるように、他人は言葉だけではついてこないことを知ることです。そこには自らの行動が大切で、信が必要になります。往々にして、言葉で他者を教化出来ると考える人がいますが、上手な説教も屁一つ、の戒めのように己を律す

る眞の行動がともなつた時、他者を感化せしめることが出来るのです。言葉や学問だけで信仰を確立することは出来ません。いまテレビで新撰組が放映されています。思想的問題を別にして、当時、勤皇攘夷と論じ合つた若い力が、百三十八年前に明治維新を確立しました。世界の政財界も現代社会も同じように若い指導者を求めています。宗門とても同じです。その時に、浄青の皆さんがそれに思いをはせ「責任を取れる行動が出来るのがプロフェッショナルである」の言葉の重さをかみしめて、教化、行政の二線に行動されることを期待して挨拶いたします。

お慈悲をば

人の心の 根とすれば

ことばの華も 美しく咲く

合掌





# 第十六期会長退任挨拶

第十四代会長 夏見 裕貴

第十六期は「輪意和以」"Let's  
和GO!!"の活動テーマの中、「和」を  
基本理念とし、実践を通して『和』  
の充実を図り、神浄青三信条である  
【自行・化他・和合】のもと、会員  
が自らの手で各事業に携わり、創り  
上げる過程での楽しさやつらさ、そし  
て円成した時の充実感や達成感を共  
有し、友情を育み、会員一人一人のこ  
ころ意を大きな輪とできるよう委員  
会を設置し活動を致しました。

省みますと、宮林第十三代会長よ  
り歴代会長をはじめとする諸先輩上  
人より脈々と受け継がれてきた歴史  
と伝統ある神浄青の法灯を、浅学非  
才な私が一期二年の活動を無事遂行で  
きましたのも偏に執行部、各組常任  
理事並びに理事各位、そして会員諸  
師のお蔭とあらためて御礼と感謝を  
申し上げます。

特に第十六期は、当会創立三十周  
年や関東ブロック浄土宗青年会総会並  
びに研修会の開催担当教区という事  
もあり、一名でも多くの会員諸師に活  
動に携わっていただきたいと考え、各  
組の総会に挨拶まわりをさせていただ  
きました。日頃県執行の事業に諸般  
の事情によりなかなか参加できない会  
員の方々と接し、県の事業に対してご  
理解ご協力をいただいた事で、会員諸  
師の英知を集結し諸事業を遂行でき  
ました事は生涯忘れられない事であ  
ります。



最後に一期二年間、第十六期に対  
しまして深いご理解とご支援を賜り  
ました教区役職者、大本山光明寺、  
教区内諸大徳、神浄青歴代会長並び  
に諸先輩、教区関係諸団体各位に衷  
心より厚く御礼を申し上げます、浄土宗  
神奈川教区青年会第十四代会長とし  
ての退任の挨拶とさせていただきます。  
本当に有難うございました。 合掌

き、会員相互の研鑽と親睦の中で、  
多様化する社会に対してどうお念仏  
を広めていくか、その時代時代に即し  
た柔軟な発想や活動が大切であると  
思います。同じ志を持った会員がひと  
つの方向に進む事で、より一層深くそ  
して強い絆が生まれ友情が芽生える  
と思います。そして活動を通し自ら  
が体験・経験した事は、将来必ず自  
坊や檀信徒教化に活きてくるものと  
確信致します。



副会長



曾我 高順

この度、神浄青第17期渡部俊賢会長のもと副会長を務めさせていただきます。

今期、渡部会長が掲げる「自信教人信」～今すべきこと～を活動テーマとし、浄青3信条である自行・化他・和合のもと2年間各事業を展開してまいります。私自身、浄土宗僧侶として～今すべきこと～と思うとき、それは法然上人のみ教を多くの人に伝えていくことだと思います。しかし、み教を正しく伝えるということは大変なことです。私自身それが出来るかと思ったら、正直自信がありません。きっと私のような思いでいる方もいるのではないのでしょうか。

今期事業の1つに宗義研修会があります。自信がある方も、ない方も今一度基本に立ち戻り、宗義研修会で法然上人のみ教をしっかりと身に付け、浄土宗僧侶としての使命を再確認して頂きたいと思います。

副会長として、会長と会員とのジョイントとなり、より良い神浄青の活動が出来るよう務める所存です。2年間よろしくお願ひ申し上げます。  
合掌

監事



野口 浩晶

時おり、初夏を思わせるような暑い日差しの中、いよいよ17期執行部がスタートを切りました。

神浄青に入り諸先輩方のお世話になりながら過した十数年の間に、いつの間にか自分が後輩を指導する立場になっている事に驚きを感じています。そして今期がいよいよ浄青活動最後の2年間であり、その2年間を17期渡部会長の下、再び監事という大役を務めさせていただく事となりました。

ここ数年は県の執行部の一員として務めさせていただきました。この経験を活かし、17期神浄青が「自信教人信～今すべきこと～」をテーマに、自行・化他・和合の浄青の三本柱を、実践を通して自分を見つめ直し、自身の信仰を深め、檀信徒への教化へ繋げられるよう、そして浄土宗僧侶としての資質を高め、それを生かせる活動が出来るように努力していきたいと思ひます。

残りの2年間、微力ながら精一杯頑張っていきますので、宜しくお願い致します。

事務局長



成田 善俊

この度、第17期神奈川区青年会の事務局長となりました。今まで神浄青の中でいろいろなお手伝いをさせていただきましたが、事務局の仕事は全く初めての経験で、何も勝手がわからず、毎日を右往左往して過ごしております。しかし、大変恵まれた先輩たちやスタッフに囲まれ、みんなで知恵を出し合い、どうにか総会を無事に終えることが出来ました。約2年間の期間でございすが、皆様に御教授いただきながら、円滑なる事務を目指し、渡部会長を支え微力ながら精進してまいります。どうぞ、宜しくお願いいたします。

神 浄 青  
紹 介



第17期  
マスコットキャラクター  
シュンさま

会計



渡辺 剛志

この度、第17期渡部会長の下、会計を務めさせて頂く事になりました、港北組の渡辺剛志です。未熟・若輩者ではありますが、渋谷上人とのタッグで神浄青活動が円滑に進みますよう精一杯努めさせていただきます。2年間宜しくお願い致します。

会計



渋谷 聡明

第17期の会計を担当させていただくこととなりました。

今期のテーマ「自信教人信」を聞いたとき、改めて自分自身原点にかえて学ぶことがたくさんあることに気づいたような気がします。自分一人ではなかなか出来ないことも仲間がいればやってみようかという気持ちにもなります。浄青活動を通して普段出来ない、今しか出来ない勉強が出来たらとてもプラスになるでしょう。何かと忙しい毎日ですが少しでも多く積極的に活動に参加出来ればと思います。

数字をみたり、計算したり、細かい作業は嫌いですが、これも自身の勉強だとおもって初めに返って精一杯努めさせていただきたいと思ひます。2年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局員



阿川 貫浄



野呂 幸裕



松江 弘信



清水 道善



當間 伸行

監事



井上 俊道

この度、「自信教人信」～今すべきこと～の活動テーマのもと、第17期渡部会長に幹事の大役を任せられ、身の引き締まる思いです。

神奈川浄青の活動に参加するようになってから十数年がたち、今の年齢になって見えてくるものや問題点・気づいたところ等を盛り込み、執行部・各組理事達と協力し、そして違った角度で見ながら、若い力が発揮できるように支援する役が担えればと考えます。

微力ながら野口監事とともに第17期神奈川浄青活動の発展を見守っていききたいと思えます。

よろしくお願ひ致します。

副会長



三荒 弘道

聖号十念

この度、神浄青の副会長として中郡組浄青から出向させて頂く事となりました。思い返せば大正大学卒業後から参加させて頂きました浄青活動も、残すところ数年となりました。浄青活動を通じ、多くの諸先輩から学んだ事やたくさんの出会いは自分自身の財産であります。第17期神浄青の副会長を務めるにあたり、微力ではありますが渡部会長を支え、自分自身が神浄青から頂戴した恩恵を、少しでも返していくつもりで活動に臨む所存であります。2年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。 合掌

相談役



夏見 裕貴

この度、第15代会長渡部俊賢上人のご指名により、神浄青第17期の相談役を務めさせていただきます。

18歳の時より当会に入会させていただき、二十数年にわたって諸先輩方よりご教示いただいたものを、そして経験し培ったものを少しでも渡部会長をはじめとする第17期神浄青へお返しする事ができればと思っております。

渡部会長が掲げる活動テーマ『自信教人信』一今すべきこと一の実践の場、研修の場として会長が意とする事を執行部をはじめ会員諸師に伝えるとともに、自分自身をみつめ原点に立ち返り、活動や諸事業が無事遂行できるよう相談役という立場で精一杯務めさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。 合掌



第17期  
役員

書記



柴田 文彦

今期、第15代渡部会長のもと、書記を務めさせていただきます。書記という字を辞書で引くと「文字を書きしるすこと。記録を残すために文字を書きしるす職。かきやく。」と出ています。その文字通り、今期の理事会等の記録を残すため文字を書きしるし、正確な議事録を作成し、今期事業が円滑かつ有意義に遂行されるよう努力してまいりたいと思っております。そして、そこには今期の活動方針である「自信教人信」～今すべきこと～を常に念頭におきながら、書記として今すべきことは何なのか、あるいは浄青会員として浄土宗の一僧侶として今すべきことは何なのかを常に見きわめ、自行化他和合に取り組んでまいりたいと思っております。しかしながら初めて務める書記という職務、皆様方には多々ご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞご指導の程よろしくお願ひ致します。

編集委員長



小山 英紹

第17期渡部会長のもと編集委員長と云う大役をお受けする事になりました中郡組の小山でございます。歴代の編集委員長に比べ大変微力でございますが、2年間皆様のご指導ご協力をお願い致し私含めまして9名の編集委員で一生懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。

編集委員



石井 康順



三浦 康志



小俣 慶樹



佐々木 元洋



丸地 裕信



森本 有史



吉田 健一



進藤 法雄

## 第29回代表者研修会に参加して 渡辺 剛志

平成16年2月19, 20日に総本山知恩院を会場に行われた第29回代表者研修会は、研修テーマ「ときはいま～すべては「還愚」から～」サブテーマ「大遠忌へ 広開浄土門」として開催された。主な研修は、全浄第17期若麻績享則理事長の提唱された、CT（コミュニティ・テンプル）活動の実践報告と今後の各寺院のCT活動への期待と展望にむけての内容であった。実践報告では、浄青会員の中から、寺院の環境を活かし、地域の中で子供会を結成し、青少年の育成に力を注いでいる報告。住宅地の中の寺院という環境を活かし、諸団体に空間を提供している報告。また、病院や老人ホームなどに、自らが出向き、「お寺の出前の会」の活動をされている報告がなされた。2日目は、御影堂で朝勤行を勤め、その後、17期全浄の事業であった「大念珠奉納式」が行われた。この大念珠は全国の47教区浄青と海外3開教区において、別時念仏会を行い供養された数珠球540玉をつなぎ合わせたものである。場所を本地堂に変えて行われた別時會では、下陣いっばいに広がった大念珠を100余名の会員で繰りながらの念仏は、朝の寒さを忘れさせるものであった。最終研修は、水谷幸正宗務総長の講演で、「浄青諸師の活躍が、800年大遠忌また、浄土宗の発展となる」の言葉を胸に、寒行としての代研を修了した。

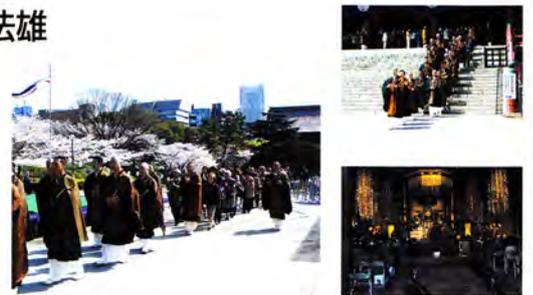
## 平成15年度 春季日想観別時會 開催報告 三浦 康志

平成15年度春季日想観別時會は、3月24日（水）午後5時より大本山光明寺山門楼上行なう予定でしたが、雨天の為開山堂を会場に移し開催されました。当日は宮林台下を御導師に、神浄青会員10名にて厳修されました。9月の様に目の前に夕陽を見る事はできませんでしたが、目を閉じてお念仏をお称えしていると、その時の夕陽が沈んでいく光景がまぶたに浮かび、極楽浄土を想い描く事ができた気が致しました。



## 大本山増上寺関東三大本山別時會報告 進藤 法雄

4月5日、増上寺に於いて関東ブロック浄土宗青年会主催の関東三大本山別時念仏會が執り行われた。当日は、好天に恵まれ、桜満開の中、大勢の檀信徒も参加した。江口定信執事長導師の晨朝法要に参拝し、その後別時念仏會を江口隆定関プロ理事長導師のもと参加者全員で木魚を叩きながらお念仏をお称えした。檀信徒が書いた名号をお清めし、その後境内の写経塔に納めて閉会となった。



## 平成16年度総会報告 成田 善俊

平成16年度の神浄青定期総会が去る4月26日に大本山光明寺を会場に行われ、出席者49名、委任状40名、合計89名をもって成立された。

開会の後、成田教区長にご祝辞を賜り、渡部会長、夏見前会長の挨拶のあと審議に移り、平成15年度事業報告、収支決算の承認、並びに平成16年度事業計画、収支予算の承認がなされた。最後に卒業式、新会員の入会式が行われ、夏見前会長よりご卒業の先輩へ記念品が贈呈され、渡部会長より新会員への記念品が贈呈された。

総会の後、今年度の事業である宗義研修会が大正大学専任講師 林田康順先生を講師に迎え、「総論—浄土宗僧侶の使命」を講題に行われ、出席会員皆真剣に聴き入り、大変有意義な研修会であった。



# 平成16年度 浄土宗神奈川教区青年会 事業計画

月 日	内 容	場 所
4月 5日(月)	関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺
15日(木)	第1回理事会	大本山光明寺
26日(月)	定期総会、神浄青入会式・卒業式・宗義研修会	大本山光明寺
5月 26日(水)	第2回理事会	大本山光明寺
26日(水)	新旧役員歓送迎会	鶴ヶ岡会館
6月 1日(火)	機関紙『浄青神奈川』第31号発行	
15日(火)～16日(水)	第32回関ブロ浄青総会並びに研修会(埼玉教区)	浦和ロイヤルバインズホテル
29日(火)	宗義研修会	大本山光明寺
7月 2日(金)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕、第3回理事会	大本山光明寺
28日(水)～30日(金)	第57回夏期僧堂手伝い(関東地方教化センター・神奈川教区)	大本山光明寺
8月 27日(金)	第34回全国浄土宗青年会中央研修会(北海道ブロック)	札幌後楽園ホテル
9月 6日(月)	第4回理事会	大本山光明寺
14日(火)	関東三大本山別時念仏会(神奈川教区)	大本山光明寺
(予定)	日想観別時念仏会	大本山光明寺
(予定)	法式研修会 法服について	大本山光明寺
10月 8日(金)	大本山光明寺十夜前清掃奉仕、第5回理事会	大本山光明寺
14日(木)	十夜托鉢・十夜法要手伝い	大本山光明寺
19日(火)	第22回関ブロ浄青スポーツ交流大会(長野教区)	ホワイトリンク・メインアリーナ
11月 (予定)	神奈川教区長杯ソフトボール大会 中郡組担当	未定
(予定)	第6回理事会、宗義研修会	大本山光明寺
12月 (未定)	対内紙『NICE BOSE 通信』第9号発行	
14日(火)	忘年会	未定
1月 (予定)	第7回理事会	大本山光明寺
24日(月)	宗義研修会、御忌別時念仏会	大本山光明寺
2月 (下旬予定)	全国浄土宗青年会代表者研修会	大本山増上寺
3月 (予定)	他宗団見学(坐禅体験)	
(予定)	日想観別時念仏会	大本山光明寺
(予定)	第8回理事会	大本山光明寺
(予定)	神浄青チャリティースポーツ交流大会	未定

## 関ブロ浄青スポーツ交流大会

長野教区担当



**10月19日(火) 開催**

我々神浄青は昨年の大会において第3位という好成績をおさめることができました。第1回大会より20年もの長き間、他教区に譲っている優勝杯を今年こそ神奈川に持ち帰りましょう!

会場は長野オリンピックフィギアスケート会場であった「ホワイトリンク・メインアリーナ」の予定

## 神浄青チャリティースポーツ交流大会

**平成17年3月 開催予定**



第17期より、「チャリティースポーツ交流大会」と題しまして、神浄青の会員でスポーツを通して、交流を深め更にチャリティーという形で地域社会へ寄付しようという企画をたてました。日頃、体を動かす機会の少ない会員の皆様、この機会に奮ってご参加頂き、チャリティーにご協力くださいますよう宜しくお願いします!

# 16年度の活動予定



4月7日、京浜浄青は箱根湯本の水明荘を会場に総会を開き、新役員の選出及び承認を行いました。会長大安寺水谷知靖、副会長慶岸寺林田康順、大徳寺加藤光成、事務局長良忠寺森本有史、会計安養寺古屋道正、書記成仏寺大熊隆史の諸師が就任しました。

昨年度は、白石前会長のもと大事業であった授戒会を、会員の日頃の研修と過去の帰敬会の経験、そして関係諸師のご尽力により無事開催することが出来ました。この授戒会を通し、会員の心中に芽生えた“自信”と“協力”の力を原動力に、二年間の活動に邁進する所存です。

活動目標として“共につくり・楽しむ。時間（とき）・場所”を念頭に、会員一人ひとりの力を結集し、共に行事を一から組み立てて行こうと考えています。

活動内容として、親睦と研鑽の二つを柱とします。親睦活動では秋に都会の喧騒から離れ、自然の中で“ゆっくり”“のんびり”会員や賛助の方、その家族たちが語り過ごせる時間を作ります。春には年度の慰労を兼ねた海外への研修旅行を計画しています。また研鑽行事として、専念寺佐々木敬易上人による法式研修。港北組蓮勝寺柴田哲彦上人による「法然上人絵伝講座」研修会（港南、鎌倉組合同）を毎月開催する予定です。

行事活動を通じ、会員相互の親睦と信頼の充実を図り、初年度は進んでまいります。宜しくお願い申し上げます。



会長  
水谷 知靖

京  
浜  
組

この度、港北組青年会の第13代会長を務める事になりました大善寺の石川和弘です。自分もいつの間にか組の会長に就任するような年齢になってしまった、と今更ながら実感しています。役員には、副会長に専念寺大谷正元師、専称寺夏見直貴師、事務局に宗忠寺夏見成貴師、会計に宝秀寺森泰道師、蓮勝寺柴田文彦師、書記に清林寺渡辺剛志師、監事に大蓮寺大橋定敏師、泉谷寺久米真浩師、浄泉寺井村真則師にお務め戴きます。今まで培った「結束力」を生かして活動していきたいと思っております。

ここ数年、組の会員の平均年齢が上がりつつあったのですが、昨年一人入会したのを機に今年は更に二人入会しました。ナント大橋定敏師以来の第一部からの新入会員になる龍安寺の水谷竜也師、大蓮寺の沼倉雄人師です。お二人の若い力に期待します！

また龍雲寺の平元正法師がご卒業されました。平元師には公私に渡り大変お世話になっておりますが、特に会長を2期お務めになられた際には、阪神淡路大震災の直後に真っ先に街頭募金を厳寒の中新横浜駅前で行いました。あの時は世間の皆様の関心も高かった事もあり、大勢の方が立ち止まりご協力戴きました事、募金の後に龍雲寺様でいただいたけんちん汁の温もりが思い出されます。今後の益々のご活躍を祈念します。

これから会員の入れ替わりも毎年のようにありますが、より親睦を深めつつ精進して参りたいと思っております。



会長  
石川 和弘

港  
北  
組

去る4月13日、組浄青総会に於いて新会長に就任致しました石川参天です。

港南組浄青は昨年度まで会員11名と神浄青8組中最少の会員数でしたが、本年度3名の新会員（正應寺石川基樹君・浄念寺大川真一君・無量寺小川真弘君）が加わり、会員一同諸手を挙げて歓迎しております。

今年度の組浄青活動は布教研修会『勅修御伝』聖典輪読会（京浜組・鎌倉組合同にて8月を除く月1回）を中心として、昨年度より開始した茶道研修会（年3回）、浄青婦人会（年2回）、港北組との合同家族親睦会、鎌倉組との合同法式研修会及び歳末助け合い募金。又、港南組浄青としては少々派手な、開教区ハワイ別院参拝を事業として計画しております。事業内容はほぼ昨年度を踏襲しておりますが、他組合同の事業が多い事でもお分かりのように、会員少数参加半数というのがここ数年の実態であり、会員数の増えた今年度は事業内容よりも、まず参加会員の増加に重点を置くことにより、組浄青の活性化を図り、又、神浄青活動へのより多くの参加の切っ掛けとしていきたいと思う次第です。今年度神浄青へ組浄青より監事として井上俊道上人、編集委員として丸地裕信上人が内局に入り、私と伊藤知道上人が理事として出向致します。浄青活動のより一層の発展に微力ながら貢献できるよう努力して参りたいと思っております。この2年間、港南浄青共々どうぞ宜しくお願い致します。



会長  
石川 参天

港  
南  
組

この度、渋谷聡明会長の後を引き継ぎ、高座組青年会会長を務めさせて頂くこととなりました曾我高順です。

今期、高座組青年会は、副会長に平野誠司上人・村瀬良喜上人、事務局長に藤本剛史上人、常任理事に平野誠司上人、理事に宮腰肇玄上人が務めさせて頂きます。また長年、高座組青年会にご尽力を頂き支え続けて頂きました川瀬和一上人がご卒業され、高座組青年会としては大変な痛手ではありますが、今期より新たに浄久寺上田裕法上人と浄土院鈴木崇仁上人が入会し、高座組青年会としては過去最多人数の18名の会員と共にスタート致します。

さて今期の事業と致しまして、法式研修会（塩澤智彦先生をお招きし、月1回のペースで法式の基礎から応用までわかりやすく丁寧にご指導頂きます。）、詠唱研修会（斎藤良典先生をお招きし、月1回のペースで詠唱の基礎からわかりやすく丁寧にご指導頂きます。）、この2つの研修会を中心に事業を展開し、ここ数年定着してまいりました千礼拝、三部経輪読、家族親睦会、他組との合同研修会ならびにスポーツ交流会も合わせて展開してまいります。また新たな試みといたしまして、高座組青年会の事業を広く知っていただき、ご理解いただく為にも、年1回の機関紙の発行を考えております。

また神奈川教区青年会、関ブロ浄青、全浄青の事業にも積極的に参加し、高座組青年会一丸となって邁進してまいります。2年間よろしくお願い申し上げます。



会長  
曾我 高順

高  
座  
組



# 平成 8 組 青 浄 内 県

## 鎌倉組



会長  
當間 伸行

4月13日開催の鎌倉組青年会総会にて、平成16年度・17年度の会長に選出されました、延命寺の當間伸行です。  
小生が会長をつとめる今期2年間は、柴田哲彦先生にご指導頂いている勅修御伝の講読研修会、港南組との合同法式研修会、歳末助け合い托鉢、忘年会を昨期に引き続き開催いたしますが、今期は法式の勉強により力を入れたいと考えております。講師に法儀司・福西賢兆先生をおむかえし、日常勤行式、六時礼讃、四誓偈、阿弥陀経などの普段おとなえする偈文やお経を勉強していく予定です。

おとなえする機会の多いお経をあらためて丁寧におとなえし、それらのもつ意味をかみしめ、しっかりと自分のものとする事で、浄土宗教師としての自信を確立し、教化活動につなげることができるのではないかと考え、新たな事業といたしました。

また小生自身は、今期は神浄青執行部においても事務局員をつとめますので、渡部会長のもと神浄青事業の遂行を精一杯お手伝いしたいと存じます。また、組会長として、組員が神浄青の事業に積極的に参加するよう促したいと考えています。

副会長の吉田佳之上人、事務局の成実洋史上人、会計の岳瀬弘昌上人をはじめ皆様のご協力を頂戴して、2年間を無事、実りあるものとしたと考えておりますので、ご支援ご協力のほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 三浦組



会長  
松原 尚樹

余郷有聡上人の後を受け第13期、三浦組浄青会長を務めさせてさせて頂くことに成りました、松原尚樹です。ここ数年、三浦組は研修会等の活動により、会員の親睦がある意味に於いて、一段と深まって参りました。そうした三浦組カラーを継承しつつ、会員一人一人が新たな色を発見出来ればと思っております。

その為にも、今期三浦組は一昨年より研鑽して参りました、慶野匡文上人による伝道研修会（法然上人の御教え、御念仏を、どうしたら人々に信じ求めてもらえるか？又、その御教えをどの様に伝えて行けばよいか？）。そして、吉水祥史上人、杉浦定徳上人による法式研修会（今だから聞ける威儀方、法服法、執持法）を今一度初心に戻り勉強して行く予定です。

又、今年度は三浦組が大本山光明寺十夜法要唱導師をお勤めする年に当たります。昨年同様、十夜出仕等の活動にも積極的に参加、精進して参りたいと考えております。

若い会員が多い中、40歳を過ぎてのこの大役。私自身、至らぬゆえ何か皆様には御迷惑をおかけしますが、次の世代に良い橋渡しが出来ればと思っております。今後とも三浦組青年会を宜しくお願い致します。

## 中郡組



会長  
斎藤 匡念

この度、中郡組浄土宗青年会の会長を務める事になりました阿弥陀寺の斎藤匡念です。さて、今期中郡組浄青ですが、「念ずること・・・今、今しなければ」をテーマに本年度、4回の念仏会・家族親睦会・日本一の富士山頂登山・新年会を行って行く中で、来年度に各会員寺院での浄青の協力を得ての行事・事業等の開催実現へ向けての準備をして参ります。また、渡部神浄青会長のもと「今すべき」浄青活動、そして各組の勉強会、事業等にも積極的に参加させて頂くつもりです。尚、平成16年度の神浄青ソフトボール（教区長杯）担当組ですので開催にあたっての準備にも力を注ぎたいと思います。

すべきこと、頭ではわかっているが行動実践が伴わない。そんな私たち浄土宗青年僧侶（極楽往生を願う永遠の友）が刺激しあい共に考え、強い意思をもって実践して行きたいと思っております。

無駄なことなど何一つない、失敗、恥をかくことを恐れず一緒に苦しみ楽しみましょう。

## 小田原組



会長  
成田 昌弥

平成16年度より新たに小田原組の会長となりました。任期の2年間頑張ります。しかし、気が付けば、私自身浄青会員でいられるのもあと数年になってしまいました。

浄青の会員数は、決して少なくない小田原組ですが、そのほとんどの会員が会社などの勤務で、残念ながら浄青活動に常時参加出来ないと云うのが現状です。そのような事情から、神浄青の活動にも数年来、毎度おなじみの顔ぶれしか参加出来ず、少なからず申し訳無い思いをしておりました。これからは、あらたに浄青活動に参加出来る人員を増やすべく、小田原組内の活動から少しずつ、それらの会員とコミュニケーションをはかり、参加する意欲を駆り立てていきたいと思っております。本年度からの事業としては、詳しい内容は未定ですが、今まで参加出来なかった会員が参加しやすく交流出来る場を設けることが出来ればと考えています。そして、例年行っている小田原組年末托鉢街頭募金には、一人でも多くの新しい顔ぶれで小田原駅前頭に立てればと思っております。また、小田原組の恒例事業となりつつあるOBとの研修旅行も、前会長の時にはとうとう海外まで進出してしまいましたが、今年は果たして何処になるやら。と云う事で、“会員の更なる交流”を本年度の小田原組の主題としていきたいと思っております。

## 豆知識

## 其の一 「香」 ～沈香について～

今回より「豆知識」と題し、仏事に關し我々が日頃疑問に感じていることや、今更人に聞けないような様々な物事を紹介していきたいと思ひます。

第一回は皆様も日頃お世話になつてゐる「香」を取り上げてみたいと思ひます。一口に香と言っても様々なものがあります。我々が普段よく使用してゐる線香や抹香・焼香、塗香などの他にも、茶の湯などで用ゐられる「練り香」、算筒などで用ゐる「掛け香」や「匂い袋」、防虫の爲の「防虫香」、赤ちやんの産湯に入れる「浴湯香」というものまであります。香はその用途によつて様々な種類の原料が使われますが、私達日本人にとつて最もポピュラーで人気のある香木と云へば沈香と白檀でしょう。ここでは特に沈香を取上げてみました。

沈香はアジアの熱帯地域に生息する沈丁花科アキラリア属の常緑喬木から採取される香木で、産出地により香りが異なります。木自体には香気がなく、老木や土中に埋没した倒木や枯木が腐り始めると木はその面の下から樹脂を送り、腐敗が進まないように防御します。樹脂の層が長い年月の間に厚く成長し、バクテリアの働きで沈香となります。沈香は字の如く水に沈む木であり、比重が大きく香物質の樹脂分が多く、色が黒褐色であるもの、これに対して水中に半分浮く香木を浅香（せんこう）と言ひます。

沈香の中で最も貴重なものに伽羅があります。ベトナムの限られた地域でしか産出せず、しかも極めて少量です。常温でも清やかな香りを発し、焚くと濃厚な他に例えよの無い伽羅独特の香りがします。徳川家康が伽羅を偏愛し多量に収集したといわれますが、最近伽羅は殆ど採取できなくなり、一説には既に取り尽くしたとも云われます。

ます。お持ちの方があれば、大事にお使い下さい。

日本では『日本書紀』に、推古三年（五九七年）獵師達が淡路島の浜辺で、流木で焚き火をしていたところ、えも言はれぬ芳香に驚き、朝廷に献上したと言ふ記述があります。これが我が国における「沈香」に關する最初の記述です。

沈香は常温では香りを発しません。攝氏一五〇度以上に加熱すると樹脂の成分が蒸発し、香りとして感じられるようになり、香りを発するものがあります。紫外線は強く、常温では揮発しないため、長い年月貯蔵しても全く変質しません。千年以上保管されているものでも焚けば香りを発します。

沈香は漢方薬の処方では万能薬に属します。強壯、解毒、健胃薬、鎮静などの効果があります。奇応丸（樋屋奇応丸の商標で有名）と言う子供の疳（かん）の虫の薬では主成分が沈香なのです。変わった所では高級な紹興酒（老酒）にも配合されています。また、防虫効果があるとも云われています。



沈香（高さ30cm）

## 平成16年度各講習会一覽

## ◎第84回教学高等講習会（夏安居）

6月21日（月）～6月25日（金）

（於）総本山知恩院

## ◎総合学術大会

9月8日（水）～9月9日（木）

（於）佛敎大学

## ◎詠唱指導者養成講座（教師対象）

9月15日（水）～9月17日（金）

（於）大本山増上寺

## ◎中央法式講習会（式師養成講座）

11月9日（火）～11月12日（金）

（於）大本山増上寺

## ◎関東地区教化高等講習会

11月15日（月）～16日（火）

（於）箱根湯本富士屋ホテル

## ◎普通講習会（神奈川教区）

12月9日（木）～10日（金）

（於）良忠寺【予定】

## ◎教化高等講習会（冬安居）

平成17年1月19日（水）～1月21日（金）

（於）総本山知恩院

※その他教学局所管の各種講習会一覽は宗報4月号に掲載されています。

# 卒業会員紹介



三浦組 不断寺 杉浦 定徳上人



十五年度をもって浄青会員を卒業しました。振り返るとさまざまなお思い出があります。老後にそのひとつひとつを振り返るのが、今から楽しみです。それだけ浄青に参加させてもらえた事は、今の自分に多大な経験と影響をもたらしていると言えます。それは求めたが故に得られたものであると思っております。「出会い」と言うものが、まさにそのいい例だったと思います。偶発的な出会いの場が、自分にとっての浄青会でした。それは時に衝突を生み、反目を生じた事を見たり実際に味わった事もありました。失敗があり、励ましがあ、爆笑があり、感動がありました。そのようないろいろな事を自分の人生に織りなすことが出来ました。求めてこそ壁が見え、乗り越えてこそ大きな達成感があり、自信につながり、相手を知らず認め、心が培われたような気がします。「自行・化他・和合」本当にすばらしい会だと思えます。大好きです。更なる発展を祈りつつ微力ながら応援します。



港北組 龍雲寺 平元 正法上人

浄青の活動に参加するようになったのはつい十数年前のことですが、浄青には今の自分が無いと言っている程、意義の有る思い出でいっぱいです。

様々な活動の中でも特に挙げるのであれば、平成九年三月、阪神淡路大震災後の現場での寺院救済作業の手伝い。寒さ厳しい寺に寝泊りしながらの参加は少しでも役に立ったのではないかと感じています。御恩別時念佛・念佛行脚の参加や他宗教団研修など大変勉強になりました。さらに平成十二年度から二年間に亘り、宮林会長のもと海外小学校支援事業では、会員の皆様の多大なるお力添えによりタイ王国プリアム地の



小田組 発心寺 原裕 誠上人

桜花爛漫の春、四十三歳を迎え、今浄青を卒業する色々あった。色々させて頂いた。その中で多くの皆と出会えたことに感謝申し上げます。

がむしゃらだった二十代、楽しかった三十代、そして「静」の四十代。皆なつかしい。最近、眼鏡なるものを持ち始めた。不自由である。



に校舎一棟を建設寄贈、感動的な落成式を円成できましたことは今でも強くここに残っています。

忘れ得ぬ貴重な思い出はまだまだたくさんありますが、活動それ自体の意義はもとより、活動を通じて多くの会員どうしがお互いに協力し、時には叱られ時には励ましながら共に感動を分かち合い、和合できたことこれが何よりも貴重な宝として残っています。

短い期間ではありましたが、本当にお世話になりました。いたらぬ身ではありますが浄青卒業後も変わらぬおつき合いをお願い申し上げます。ありがとうございます。

しかし、その分若い頃見えなかつたものが見え、何かに気付き始めた気がする。浄青会員のみならず、ありがとうございました。こうべ頭を垂れお礼申し上げます。

「礼」を尊ぶことはとても大事である。その一つに、浄青を発展させてくれた諸先輩の努力へ感謝申すべく頭を垂れる。そして、これからは浄青をよろしくと托し願う。最後、悠久の時をかみしめつつ、静かに筆を納め置く。南無阿弥陀仏。



三浦組 清浄寺 磯部 仁香上人

長い間、神奈川浄青の皆さんには大変お世話になりました。有難うございました。あまり活動に出席できず、いつも迷惑ばかりおかけし、申し訳ございませんでした。

私は学生生活が長く、二十五歳頃入会させて頂きました。入会当時は僧侶としての自覚もあまりなく、基本的な所作すらまともにできずに居り、自分自身この先僧侶として勤められるものか、大変不安に感じておりました。

最初に三浦組総会に出席させて頂きましたが、知らない方ばかりで、緊張しどうでした。その後、組



高座組 法門寺 川瀬 和一上人

大学在学中から浄青の事はよく耳にしていたのですが、参加するようになったのは卒業して副住職を拝命してからでした。私は在学期間が長かったので浄青への参加年数は二十年には足りませんでした。

浄青の活動期間を考えると、社会に出て自ら収入を得るようになり自由にお金を使える、ちょうどバブルの時期(私の収入が多かったわけではありませぬ)を経て、

内先輩の勧めで行った金沢女子寮への花祭りプレゼントを皮切りに、その後の糧となる様々な経験をさせて頂くことができました。

振り返りますと、戸塚から光明寺までの念仏行脚・ソフトボール大会・海外仏教国支援事業等々、また組内では、ハワイ引声法要・海外研修・パーベキュー大会等々、色々な思い出があります。特に海外仏教国小学生支援事業では実行委員を務めさせて頂き、感謝しております。浄青の目的に、「会員相互の研鑽と親睦を図り、社会教化に尽くす」とあるように、一人一人の力は小さくとも、会員の力が結集すれば、こんなにも素晴らしい活動ができるということを感じ、身を以て実感いたしました。

昨今の社会では様々な問題が起きております。社会事情を考えますと、浄青としてどのような活動をすれば良いのか浄青会員だからこそ出来る事等を、柔軟な考え方を以て活動し、いつて欲しいと願っています。今後は浄青活動で培った経験を活かし、僧侶としての活動に役立て、日々精進し過して行く所存でございます。今後も神奈川浄青の益々の発展を願っております。

最後になりましたが、ご指導頂きました皆様にお礼申し上げます。本当に有難うございました。



三浦組 天養院 吉水 祥史上人



小田組 大見寺 木村 敦英上人



鎌倉組 信楽寺 新原 千春上人

新入会員紹介

【質問内容】

- ◎組名
  - ◎寺名
  - ◎氏名
  - ◎生年
  - ◎加好
  - ◎好
  - ◎好
  - ◎趣
- 日 月 年 日 月 日  
 満 成 年 月 日  
 芸 能 人 の タイ プ ( 異 性 )



松蔭 俊輔 小田原組 蓮乗寺 昭和57年 4月 9日 平成15年12月 ラーメン 内緒です。 音楽鑑賞	阿川 貫雄 小田原組 常光寺 昭和56年 1月20日 平成15年12月 肉料理 特になし 音楽鑑賞 (レゲエ)	鈴木 崇仁 高座組 浄土院 昭和53年10月20日 平成11年12月 コロッケ 長谷川京子 根付彫刻	上田 裕法 高座組 浄久寺 昭和45年11月 4日 平成 5年12月 魚料理 水野美紀 魚釣	小川 真弘 港南組 無量寺 昭和56年 1月18日 平成14年12月 果物 特になし 読書	大川 真一 港南組 浄念寺 昭和56年10月28日 平成14年12月 ラーメン 特になし 読書・散歩・将棋	石川 基樹 港南組 正應寺 昭和52年2月24日 平成15年12月 ピザ 原 千晶 バイク	沼倉 雄人 港北組 大蓮寺 昭和56年8月31日 平成14年12月 中華 特になし 映画	水谷 竜也 港北組 龍安寺 昭和54年 5月 8日 平成15年12月 白飯 ミムラ 音楽鑑賞
--	--	---	---	--	--	--	---	---

出向者紹介

今期新たに全浄青幹事長に大橋定敏上人・幹事に富田浩雅上人が出向されることになりました。また、関ブロ浄青常任理事に渡部俊賢上人・理事に三荒弘道上人・事務局に相馬正覚上人が出向されることになりました。ご活躍を期待いたします！

全浄青 出向者



幹事 富田 浩雅  
幹事長 大橋 定敏

関ブロ浄青 出向者



事務局員 相馬 正覚  
理事 三荒 弘道  
常任理事 渡部 俊賢

編集後記

四月より、渡部新会長以下、神浄青の新たな体制が船出をしました。我々編集委員会の顔ぶれも一新され、新体制のもとではじめての神浄青機関紙「浄青神奈川」を発行することができました。本号より紙面も新たに「各種講習会案内」「豆知識」を加え、皆様に向け更に多くの情報をお伝えして行きたいと思っております。当編集委員会に皆様のお声をどしどしお寄せください。ご要望にお応えできるよう頑張っって参りたいと思っております。

編集委員会一同

2年間よろしくお願いたします。



17期編集委員会